

土木学会四国支部「土木紀行」 No.13(徳島県)

～加賀須野橋～

徳島県徳島市は、河川、水路、港湾など水運をフルに活用した街づくりが古くより行われてきました。特に今切工業団地は大塚製薬、大鵬薬品などの化学、薬品関連の工業が発達しており、その発達を支えているのは今切川による水運であるといっても過言ではありません。そのため、陸路と水路の需要から生まれた県下唯一の可動橋、それが県道 220 号線の加賀須野橋です。橋の詳細は全長が 197.25m、全幅が 4.6m（可動部）～ 8.1m（桁橋部）となっています。形式は橋梁の中央部が跳ね上がる仕組みの跳開橋になっており、可動部の桁長は 20m、船が航行できる幅は 17m となっています。



写真-1 加賀須野橋全景

加賀須野橋は今切港から上流の工場に船舶を航行させるために、1日10回程度開閉しています。開閉部は片側交互通行になっており、さらに橋が開いてから閉じるまで10分程度かかるなど、渋滞が発生しやすくなっています。それでも、近隣住民にとっては交通の要衝であり、生活には欠かすことのできない橋となっています。



写真-2 可動部（橙色の部分）



写真-3 片側一車線の可動部

さて、加賀須野橋がこの地に架けられたのは明治半ばといわれています。そして、1923年と1954年に架け替えられているので、現在の加賀須野橋は三代目ということになります。実際に可動橋化されたのは1956年で、それから半世紀以上に渡って活躍していることとなります。その半世紀の間には、船舶が橋梁に衝突する事故がたびたび起こったりもしました。これは写真-5を見ていただいてもわかるように、航行する船舶に対して開閉部がかなり狭いのため、熟練した操舵能力が必要となるからです。

そんな加賀須野橋は、全国でもわずかなしかない現役の可動橋の一つです。なかでも日常的に開閉がおこなわれている橋ということで、大変珍しいものです。特に朝夕は一度に何隻もの船舶が入り出すこともあり、開閉の瞬間や大型船舶の通行の見頃となっています。私たちが取材をおこなった時も、橋を取材中の新聞記者の方と出会いました。

陸運・水運ともに活躍してきた加賀須野橋ですが、時の流れには逆らうことはできず、老朽化が進んでいます。そのため西側に二車線の昇開橋が新設される予定です。

加賀須野橋の開閉シーンを動画に収めてきましたので、下記 URL より是非ご覧ください。毎日午前6時10分から午後7時までの間で、通行船舶がいるときには開閉されています。興味の湧いた方は実物を見にいらしてください。

動画：<http://www.windlab.ce.tokushima-u.ac.jp/kagasuno/>

参考文献：阿波の橋めぐり、坂本好、(株)アルス製作所創立50周年記念誌刊行会



写真-4 操作所（○で囲った建物で開閉操作をおこなっています）



写真-5 全開状態（およそ90秒かけて最大79°まで開きます）



写真-6 船の通過（開閉部は船の横幅ギリギリです）